

〔ワケネギ「東京小町」の周年栽培体系における生育特性の解明〕

ワケネギ3系統の苗重と収量性との関係および収穫適期の評価

吉原恵子・木下沙也佳・海保富士男

(園芸技術科)

【要約】ワケネギ「東京小町」の定植時の苗重は、苗長 30 cmとした場合に 30g 超/本の苗を用いることで収量性が高くなる。また、「東京小町」は他の 2 系統に比べて、分けつが進みにくく、分けつが細くならない特性を持ち、在圃性の高い品種である。

【目的】

ワケネギ「東京小町」(以下、「小町」)の生育特性を解明するために、定植時の苗重が収量に及ぼす影響について、在来系統(以下、「在来」)や埼玉県優良系統(以下、「埼玉」と比較しながら解明する。加えて、収穫適期についても明らかにする。

【方法】

「小町、在来、埼玉」を 2025 年 1 月 30 日に銀黒マルチ 9220 を敷設したベッドに 1 本植で定植した。定植時の苗は苗長 30 cm とし、10 g 未満/本の苗(以下、10 g 未苗)、10~20g 未満/本の苗(以下、20g 未苗)、20~30g 未満/本の苗(以下、30g 未苗)、30g 以上/苗(以下、30g 超苗)に区分した。「在来、埼玉」は 20g 以上の苗が十分確保できなかったため 10g 未苗と 20g 未苗の 2 区とし、「小町」は 10 g 未満の苗が確保できなかったため 20g 未苗・30g 未苗・30g 超苗の 3 区を設けた(図 1)。定植後は「サンサンネットクロスレッド(目合 0.8mm)」でトンネル被覆した。基肥に N-P₂O₅-K₂O を成分量で 20-20-20kg/10 a で施用し、追肥に N-P₂O₅-K₂O を成分量で 3-0-3kg/10 a 施用した。収穫調査は 8 月 12 日から概ね 1 ヶ月ごとに実施した。

【成果の概要】

1. 3 系統を 1 月 30 日に定植して 8 月 12 日収穫した結果を図 3 に示した。上物本数 20~30 本に達した時期を収穫適期とすると、「在来、埼玉」は収穫適期を過ぎていたが、「小町」は収穫適期であった。定植苗重別の上物重および上物本数について、「在来、埼玉」の 10g 未苗と 20g 未苗の両区に差はみられなかった。「小町」は、3 区の上物本数には差がなかったが、上物重において 30g 超苗で有意に高かった。このことから「小町」の定植苗は 30g 超苗を用いることで、収量性が高くなることが明らかとなった。
2. 「在来」は在圃期間が長くなるほど、分けつ数が増加し、200 本/株を超えた(図 4)。また、上物本数および上物 1 本重は減少傾向にあった。これは「埼玉」においても同様な傾向がみられた。「小町」は収穫適期に入って約 2 ヶ月後(245 日後)においても収穫適期が続き、他の系統に比べて上物 1 本重が高く推移した(図 2)。さらに定植 279 日後においても上物 1 本重は減少しなかった。このことから、「小町」は分けつが進みにくく、そのため分けつが細くならない特性をもつことが示唆され、「在来、埼玉」に比べて在圃性が高い品種であることが明らかとなった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

本試験で得られた結果を基に、暫定的な作型表の修正を行う。

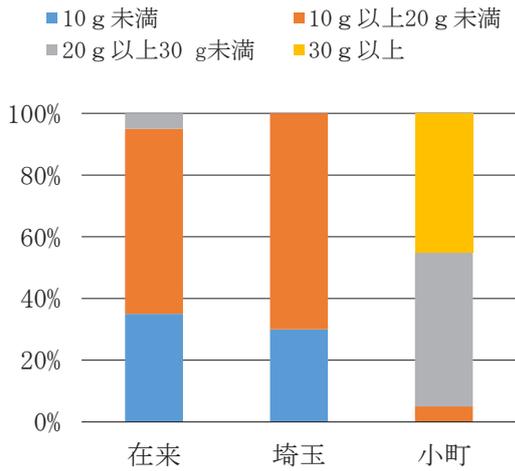


図1 供試した定植苗重の分布

図2 3系統の定植245日後の20g未苗の外観
(左:「小町」, 中央:「在来」, 右:「埼玉」)

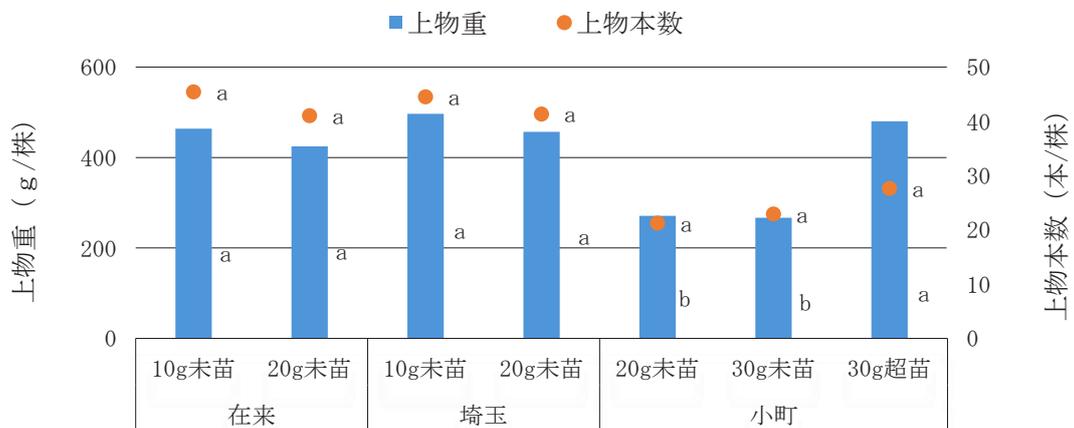


図3 定植苗重別の上物重および上物本数

注) 1月定植露地栽培。8月収穫。系統を同じくするグラフで異なる英文字間に Tukey 法により 1%水準で有意差あり

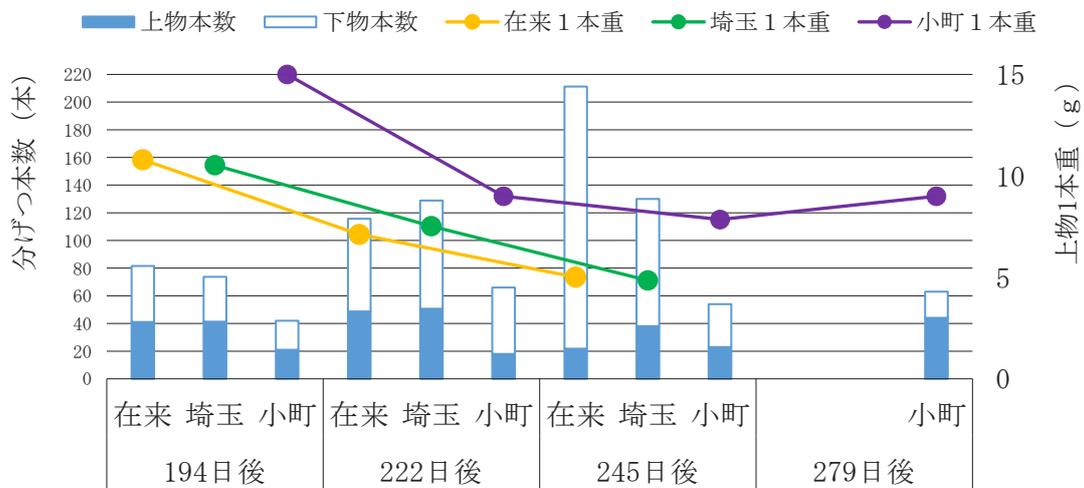


図4 在圃期間が分げつと上物1本重に及ぼす影響

注) 1月定植露地栽培。苗質10~20g未満の苗の結果。定植194日後(8月12日), 定植222日後(9月9日), 定植245日後(10月2日), 定植279日後(11月5日)